

はじめに

「禍(か)」とは何か。私にとってそれは自分自身であり、また自分の存在する意味であるのだが、人間にとつては違う。「禍」は人の生き方を歪め、人格を歪め、その生きる意味を分からなくするモノだ。人はそれを「不幸」と呼ぶ。しかしその呼称は適切ではない。人は全ての災厄を「不幸」と呼ぶが、その災厄の半分は「禍」によって引き起こされている。人はそれを明確に区別することができず、結果「禍」の引き起こす「不幸」も止められないでいる。そればかりか「禍」の増殖を許し、今や自然災害、飢餓、病、事故といった残りの半分の災厄を大きく上回るほどの「禍」が蔓延る時代を作り上げてしまった。

そもそも「不幸」とは、「幸福でない」という意味の言葉である。私にはこの言葉が人間の一番の欠点を如実に表しているように思える。すなわち、「不幸が見えない」のである。見えないから「幸福ではない何か」としか表現できないのだ。しかし私の目に映る世界は違う。「禍」は目に見えるが、「幸福」というものは目に見えない。いや、「幸福」など存在しない。ただ「不幸ではない何か」というものがきつと「幸福」なのだろうと思う。私はこれを「不禍」と呼んでいる。

遅くなつてしまったが、私は「禍」の存在を広く認知してもらうためにこの「禍可視至奇記」を書くこととした。しかしその目的は決して人間の救済や進化などではない。願わくばこれを読み終えた貴方が、きつともう戻れないところにまで来てくれることを。

